

カードテキスト

王立地理学会

イギリス高地アジアカード (2枚中の1)

王立地理学会が、ヤクブ・ベクの支配地域であるヤルカンド探索を行うジョージ・ヘイワードに、資金提供を行う。

本カードをアクションに使用した場合、高地アジアパネルに置くこと。

1

専門家

イギリス高地アジアカード (2枚中の2)

ヤクブ・ベクの支配地域において、ヨーロッパ人は長い間、軟禁状態を強いられていた。そのため高地アジアへの進出にあたり、帝国は現地の探検家を雇わざるをえなかった。

本カードをアクションに使用した場合、高地アジアパネルに置くこと。

1

軍の測量技師

ロシア高地アジアカード (2枚中の1)

ブルジェヴァリスキー大佐とグロンブチェフスキー大尉が、チベットとフンザを探索する。

本カードをアクションに使用した場合、高地アジアパネルに置くこと。

1

コサック

ロシア高地アジアカード (2枚中の2)

中央アジアの周辺地域を偵察・探索するため、ロシアはコサックを利用した。

本カードをアクションに使用した場合、高地アジアパネルに置くこと。

1

フラッシュマン

イギリスは直ちに Flashman の指揮官カウンターを、イギリス支配下の任意のスペースに配置する。Flashman は他のイギリス指揮官と同様に、プレイに留まる。

1

アミールの娘

Flashman により実施された、イギリスの攻撃に対するリアクションとして、通常の手順外で利用できる。

イギリスは攻撃ダイスロール数を 1 つ加算しなければならない。つまり 1d6 は 2d6 となり、2d6 は 3d6 となる。

1

クリミア戦争

オスマン帝国が崩壊するにつれ、イギリスとフランスもロシアの冒険主義を習う。

このカードはアクションにのみ使用でき、いざ使用されたらデッキより取り除く。
このラウンドのみ、イギリス/ロシアの IP SP を互いのスペースへと移動させ、攻撃を実施できる。

1

王室/皇室の関与

相手陣営は、本国外にある自身の IP SP のうち半数を (端数切り上げ)、本国要塞に戻す必要がある。これらの SP とスタックしている指揮官は、一緒に戻しても良い。そののち SP が呼び戻された要塞において、IP SP の半分を取り除く。

2

王室/皇室の関与

相手陣営は、本国外にある自身の IP SP のうち半数を (端数切り上げ)、本国要塞に戻す必要がある。これらの SP とスタックしている指揮官は、一緒に戻しても良い。そののち SP が呼び戻された要塞において、IP SP の半分を取り除く。

2

マルティニ・ヘンリー銃とクルップの大砲

イギリスは新型のマルティニ・ヘンリー銃の恩恵を受け、かたやロシアはクルップの 107mm 砲に助けられた。

このカードのテキストは、1870 年にのみ適用される。その他の場合は、価値 3 のカードとして使用すること。
このラウンドのみ、このカードにより攻撃を実施した IP SP は、実際の出目に関わらずダイスの 1 個において 1 がロールされたものと見なす。

2

マルティニ・ヘンリー銃とクルップの大砲

イギリスは新型のマルティニ・ヘンリー銃の恩恵を受け、かたやロシアはクルップの 107mm 砲に助けられた。

このカードのテキストは、1870 年にのみ適用される。その他の場合は、価値 3 のカードとして使用すること。
このラウンドのみ、このカードにより攻撃を実施した IP SP は、実際の出目に関わらずダイスの 1 個において 1 がロールされたものと見なす。

2

狩猟休暇

アーサー・コノリーは、中央アジアにおけるさまざまな偵察任務に関わった。

自身の指揮官の、いずれか 1 人をスパイとして選択する。この時点で、相手陣営は「密告者」カードを使用できる。1d6 を行い、スパイの外交値を加算し、それより密告者いずれか 1 人の外交値を引く。結果が 4 以上であれば、相手の手札を確認し 1 枚のカードを獲得できる。その他の結果であった場合、指揮官を取り除く。

3

狩猟休暇

アーサー・コノリーは、中央アジアにおけるさまざまな偵察任務に関わった。

自身の指揮官の、いずれか 1 人をスパイとして選択する。この時点で、相手陣営は「密告者」カードを使用できる。1d6 を行い、スパイの外交値を加算し、それより密告者いずれか 1 人の外交値を引く。結果が 4 以上であれば、相手の手札を確認し 1 枚のカードを獲得できる。その他の結果であった場合、指揮官を取り除く。

3

狩猟休暇

アーサー・コノリーは、中央アジアにおけるさまざまな偵察任務に関わった。

自身の指揮官の、いずれか 1 人をスパイとして選択する。この時点で、相手陣営は「密告者」カードを使用できる。1d6 を行い、スパイの外交値を加算し、それより密告者いずれか 1 人の外交値を引く。結果が 4 以上であれば、相手の手札を確認し 1 枚のカードを獲得できる。その他の結果であった場合、指揮官を取り除く。

3

密告者

「狩猟休暇」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。

自身のいずれかの指揮官を選択し、相手のダイスロールよりその外交値を引く。相手のロール結果が 4 以上であれば、選択した指揮官を取り除く。

3

密告者

「狩猟休暇」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。

自身のいずれかの指揮官を選択し、相手のダイスロールよりその外交値を引く。相手のロール結果が 4 以上であれば、選択した指揮官を取り除く。

3

密告者

「狩猟休暇」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。

自身のいずれかの指揮官を選択し、相手のダイスロールよりその外交値を引く。相手のロール結果が 4 以上であれば、選択した指揮官を取り除く。

3

英雄

相手陣営による、自身の IP の根拠地より 3 スペース以内のスペースに対する攻撃宣言に対し、リアクションとして直ちに使用する。

戦闘ダイスが振られる前に、攻撃目標ヘクスに自身の IP の指揮官 1 人を直ちに移動させる。

3

英雄

相手陣営による、自身の IP の根拠地より 3 スペース以内のスペースに対する攻撃宣言に対し、リアクションとして直ちに使用する。

戦闘ダイスが振られる前に、攻撃目標ヘクスに自身の IP の指揮官 1 人を直ちに移動させる。

3

英雄

相手陣営による、自身の IP の根拠地より 3 スペース以内のスペースに対する攻撃宣言に対し、リアクションとして直ちに使用する。

戦闘ダイスが振られる前に、攻撃目標ヘクスに自身の IP の指揮官 1 人を直ちに移動させる。

3

ペンは剣よりも強し

ある兵士にして詩人が著した、相手陣営の不名誉な行いに関する本が広く読まれたことで、その陣営の評判が失墜する。

次のラウンドにおいて、相手陣営はカードを増援に使用できるが、アクションには使用できない。

3

ペンは剣よりも強し

ある兵士にして詩人が著した、相手陣営の不名誉な行いに関する本が広く読まれたことで、その陣営の評判が失墜する。

次のラウンドにおいて、相手陣営はカードを増援に使用できるが、アクションには使用できない。

3

ペンは剣よりも強し

ある兵士にして詩人が著した、相手陣営の不名誉な行いに関する本が広く読まれたことで、その陣営の評判が失墜する。

次のラウンドにおいて、相手陣営はカードを増援に使用できるが、アクションには使用できない。

3

砲艦外交

イギリスがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドにおいてのみ、イギリスの SP はペルシャ湾の青色のラインを通じて移動／退却できる。

ロシアがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドのみロシアの SP はアラル海とカスピ海の青色のラインを通じて移動／退却できる。

4

砲艦外交

イギリスがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドにおいてのみ、イギリスの SP はペルシャ湾の青色のラインを通じて移動／退却できる。

ロシアがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドのみロシアの SP はアラル海とカスピ海の青色のラインを通じて移動／退却できる。

4

砲艦外交

イギリスがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドにおいてのみ、イギリスの SP はペルシャ湾の青色のラインを通じて移動／退却できる。

ロシアがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドのみロシアの SP はアラル海とカスピ海の青色のラインを通じて移動／退却できる。

4

砲艦外交

イギリスがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドにおいてのみ、イギリスの SP はペルシャ湾の青色のラインを通じて移動／退却できる。

ロシアがこのカードをアクションに使用した場合、このラウンドのみロシアの SP はアラル海とカスピ海の青色のラインを通じて移動／退却できる。

4

反乱

相手陣営に征服された、いずれかの VS に使用できる。1d6 を行い、結果が 3 以上であれば VS は直ちに反乱する。

アフガニスタンが反乱した場合、1 回目の反乱であれば Akbar (3/0) を、2 回目の反乱であれば Ayub (3/0) の各指揮官を反乱軍に含める。

4

反乱

相手陣営に征服された、いずれかの VS に使用できる。1d6 を行い、結果が 3 以上であれば VS は直ちに反乱する。

アフガニスタンが反乱した場合、1 回目の反乱であれば Akbar (3/0) を、2 回目の反乱であれば Ayub (3/0) の各指揮官を反乱軍に含める。

4

反乱

相手陣営に征服された、いずれかの VS に使用できる。1d6 を行い、結果が 3 以上であれば VS は直ちに反乱する。

アフガニスタンが反乱した場合、1 回目の反乱であれば Akbar (3/0) を、2 回目の反乱であれば Ayub (3/0) の各指揮官を反乱軍に含める。

4

反乱

相手陣営に征服された、いずれかの VS に使用できる。1d6 を行い、結果が 3 以上であれば VS は直ちに反乱する。

アフガニスタンが反乱した場合、1 回目の反乱であれば Akbar (3/0) を、2 回目の反乱であれば Ayub (3/0) の各指揮官を反乱軍に含める。

4

ペルシャの変節

イランのシャーであるナーセロッディーン (1848~1896)。

このカードが使用された十年期において、イギリスまたはロシアがペルシャと同盟している場合、相手陣営の SP が 2 スペースを占めた時点でペルシャは同盟を破棄し中立となる。相手陣営はペルシャ国内の自身の SP をそれぞれの国家のボックスへ移動させることができる。マップ上のペルシャの SP を取り除き、首都に配置されていた IP SP を、それぞれの本国根拠地に戻す。

4

ペルシャの変節

イランのシャーであるナーセロッディーン (1848~1896)。

このカードが使用された十年期において、イギリスまたはロシアがペルシャと同盟している場合、相手陣営の SP が 2 スペースを占めた時点でペルシャは同盟を破棄し中立となる。相手陣営はペルシャ国内の自身の SP をそれぞれの国家のボックスへ移動させることができる。マップ上のペルシャの SP を取り除き、首都に配置されていた IP SP を、それぞれの本国根拠地に戻す。

4

ペルシャの変節

イランのシャーであるナーセロッディーン (1848~1896)。

このカードが使用された十年期において、イギリスまたはロシアがペルシャと同盟している場合、相手陣営の SP が 2 スペースを占めた時点でペルシャは同盟を破棄し中立となる。相手陣営はペルシャ国内の自身の SP をそれぞれの国家のボックスへ移動させることができる。マップ上のペルシャの SP を取り除き、首都に配置されていた IP SP を、それぞれの本国根拠地に戻す。

4

ペルシャの変節

イランのシャーであるナーセロッディーン (1848~1896)。

このカードが使用された十年期において、イギリスまたはロシアがペルシャと同盟している場合、相手陣営の SP が 2 スペースを占めた時点でペルシャは同盟を破棄し中立となる。相手陣営はペルシャ国内の自身の SP をそれぞれの国家のボックスへ移動させることができる。マップ上のペルシャの SP を取り除き、首都に配置されていた IP SP を、それぞれの本国根拠地に戻す。

4

密使

少なくとも、征服されていないスペース 3 カ所を有する VS に使用できる。指揮官の 1 人を密使として選択し、その VS の首都に置く。**この時点で相手陣営は、「妨害者」カードを使用できる。**1d6 を行い、密使の外交値を加算する。妨害者が使用された場合は、その指揮官の外交値を引くこと。結果が 5 以上であれば、VS の状態を自陣営に有利となるよう 1 段階シフトさせ、相手の指揮官を除去する。結果が 4 以下であれば、自身の指揮官が除去される。なおロシアがこのカードを使用してテヘランに密使を送る場合、外交値は常に 3 となる。VS が中立となったら、その VS における IP の戦力は、本国の根拠地に戻される。

6

密使

少なくとも、征服されていないスペース 3 カ所を有する VS に使用できる。指揮官の 1 人を密使として選択し、その VS の首都に置く。**この時点で相手陣営は、「妨害者」カードを使用できる。**1d6 を行い、密使の外交値を加算する。妨害者が使用された場合は、その指揮官の外交値を引くこと。結果が 5 以上であれば、VS の状態を自陣営に有利となるよう 1 段階シフトさせ、相手の指揮官を除去する。結果が 4 以下であれば、自身の指揮官が除去される。なおロシアがこのカードを使用してテヘランに密使を送る場合、外交値は常に 3 となる。VS が中立となったら、その VS における IP の戦力は、本国の根拠地に戻される。

6

密使

少なくとも、征服されていないスペース 3 カ所を有する VS に使用できる。指揮官の 1 人を密使として選択し、その VS の首都に置く。**この時点で相手陣営は、「妨害者」カードを使用できる。**1d6 を行い、密使の外交値を加算する。妨害者が使用された場合は、その指揮官の外交値を引くこと。結果が 5 以上であれば、VS の状態を自陣営に有利となるよう 1 段階シフトさせ、相手の指揮官を除去する。結果が 4 以下であれば、自身の指揮官が除去される。なおロシアがこのカードを使用してテヘランに密使を送る場合、外交値は常に 3 となる。VS が中立となったら、その VS における IP の戦力は、本国の根拠地に戻される。

6

密使

少なくとも、征服されていないスペース 3 カ所を有する VS に使用できる。指揮官の 1 人を密使として選択し、その VS の首都に置く。**この時点で相手陣営は、「妨害者」カードを使用できる。**1d6 を行い、密使の外交値を加算する。妨害者が使用された場合は、その指揮官の外交値を引くこと。結果が 5 以上であれば、VS の状態を自陣営に有利となるよう 1 段階シフトさせ、相手の指揮官を除去する。結果が 4 以下であれば、自身の指揮官が除去される。なおロシアがこのカードを使用してテヘランに密使を送る場合、外交値は常に 3 となる。VS が中立となったら、その VS における IP の戦力は、本国の根拠地に戻される。

6

密使

少なくとも、征服されていないスペース 3 カ所を有する VS に使用できる。指揮官の 1 人を密使として選択し、その VS の首都に置く。**この時点で相手陣営は、「妨害者」カードを使用できる。**1d6 を行い、密使の外交値を加算する。妨害者が使用された場合は、その指揮官の外交値を引くこと。結果が 5 以上であれば、VS の状態を自陣営に有利となるよう 1 段階シフトさせ、相手の指揮官を除去する。結果が 4 以下であれば、自身の指揮官が除去される。なおロシアがこのカードを使用してテヘランに密使を送る場合、外交値は常に 3 となる。VS が中立となったら、その VS における IP の戦力は、本国の根拠地に戻される。

6

密使

少なくとも、征服されていないスペース 3 カ所を有する VS に使用できる。指揮官の 1 人を密使として選択し、その VS の首都に置く。**この時点で相手陣営は、「妨害者」カードを使用できる。**1d6 を行い、密使の外交値を加算する。妨害者が使用された場合は、その指揮官の外交値を引くこと。結果が 5 以上であれば、VS の状態を自陣営に有利となるよう 1 段階シフトさせ、相手の指揮官を除去する。結果が 4 以下であれば、自身の指揮官が除去される。なおロシアがこのカードを使用してテヘランに密使を送る場合、外交値は常に 3 となる。VS が中立となったら、その VS における IP の戦力は、本国の根拠地に戻される。

6

妨害者

「密使」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。外交ロールに対抗するため、自身の指揮官の 1 人を、直ちに密使カードの対象となった VS の首都に配置する。「密使」カードと異なり、ロシアが「妨害者」をテヘランに使用しても外交値 3 は得られない。

6

妨害者

「密使」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。外交ロールに対抗するため、自身の指揮官の 1 人を、直ちに密使カードの対象となった VS の首都に配置する。「密使」カードと異なり、ロシアが「妨害者」をテヘランに使用しても外交値 3 は得られない。

6

妨害者

「密使」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。外交ロールに対抗するため、自身の指揮官の 1 人を、直ちに密使カードの対象となった VS の首都に配置する。「密使」カードと異なり、ロシアが「妨害者」をテヘランに使用しても外交値 3 は得られない。

6

妨害者

「密使」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。外交ロールに対抗するため、自身の指揮官の 1 人を、直ちに密使カードの対象となった VS の首都に配置する。「密使」カードと異なり、ロシアが「妨害者」をテヘランに使用しても外交値 3 は得られない。

6

妨害者

「密使」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。外交ロールに対抗するため、自身の指揮官の 1 人を、直ちに密使カードの対象となった VS の首都に配置する。「密使」カードと異なり、ロシアが「妨害者」をテヘランに使用しても外交値 3 は得られない。

6

妨害者

「密使」カードの使用に対する、リアクションとして直ちに使用する。外交ロールに対抗するため、自身の指揮官の 1 人を、直ちに密使カードの対象となった VS の首都に配置する。「密使」カードと異なり、ロシアが「妨害者」をテヘランに使用しても外交値 3 は得られない。

6

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部：
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒヴァ占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン戦争

7

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部:
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒ ヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン
戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒ ヴァ 占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン
戦争

7

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部:
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒ ヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン
戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒ ヴァ 占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン
戦争

7

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部:
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒ ヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン
戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒ ヴァ 占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン
戦争

7

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部:
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒ ヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン
戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒ ヴァ 占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン
戦争

7

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部:
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒ ヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン
戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒ ヴァ 占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン
戦争

7

戦役

グレート・ゲームにおける戦役の一部:
1838 年のヘラートにおけるベルシャ攻囲戦
1839 年のヒ ヴァにおけるロシアの進出
1839～42 年の第一次アングロ・アフガニスタン
戦争
1842 年のパンジャブの征服
1856～57 年のアングロ・ベルシャ戦争
1860 年代のロシア・ブハラ戦争
1870 年代のロシア・トルクメニスタン戦争
1873 年のヒ ヴァ 占領
1875 年のコーカンドの反乱
1878～80 年の第二次アングロ・アフガニスタン
戦争

7